

小林可夢偉は 14 位完走。国本雄資は 8 位ポイント獲得。

2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 6 戦レポート

開催日程	2022 年 7 月 16 日(土) / 17 日(日)	開催場所	富士スピードウェイ (4,563km)
大会名称	2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 6 戦 (41 周又は 75 分 / 参加台数 21 台)		
天候 / 気温	7 月 16 日(土) 雨 / 22 度 17 日(日) 曇り / 27 度		
観客動員数	7 月 16 日(土): 8,200 人	17 日(日): 13,900 人	計 22,100 人(主催者発表)

今年は例年に比べ、とても短い期間での梅雨明けとなり、暑さが本格的となった7月に、開幕戦以来2度目の開催となる静岡県の富士スピードウェイで第6戦が行われた。天気予報では予選が行われる土曜日が終日雨となり、雨量も多くなることが予想されていた。今シーズンの鈴鹿ラウンドでは雨の中、小林、国本の両選手が予選でともにQ2に進出し、決勝でも5位／6位と2台揃ってポイントを獲得しているため、今回も雨を味方にして良い結果を残すべく、期待をもって臨んだ。



【予選】

天気：雨 / 気温：22度 / 路面コンディション：ウェット

#7	小林可夢偉	No Time
#18	国本雄資	18位 / 1'40.356

16日予選日は9時前頃から激しい雨が降り始めたが、フリー走行開始時刻の10時15分には止んでいた。コースは乾いていく方向だったがダンプコンディションのため、ウェット宣言が出された。雨はセッション開始から30分を過ぎたところで強く降り出し、一旦は雨脚が弱まったが再び強まったため、チェッカー時刻を待たずに11時35分で終了が決定された。小林、国本の両選手はセットアップを進めながら周回を重ね、小林は18番手(1'36.957)、国本は12番手(1'35.204)で走行を終えた。

雨が降り続ける中、15時10分から予選が行われた。雨量の変動を考慮し、通常のノックアウト方式から30分間の計時方式に変更となった。気温22度、路面温度24度というコンディション。雨脚が強くなることが予想されていたため、各車予選開始と同時にコースイン。小林はコース上でのトラフィックを避けるために1分間ピットで待機し、コースへと向かった。タイヤウォームアップ中の計測1周目、小林は最終コーナー手前のGR Supraコーナーで突然リアが流れ、スピンを喫する。コントロール不能となったマシンはタイヤバリアにヒットしてしまい、ここで予選を終えることとなった。

一方、国本はコースオープンと同時にピットを後にし、3回も赤旗が提示される中で走行を続けたが、タイヤのグリップ感を得られず、徐々に増えていく雨量もあってなかなかタイムを出せないまま予選終了。タイムは1'40.356に留まった。

明日の決勝は、タイム計測ができず、赤旗の原因になってしまった小林は20番グリッド、国本は18番グリッド、と2台ともに後方からのスタートとなるが、チーム一丸となって巻き返しを図る。



【決勝】

天気：曇り / 気温：27度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 14位 / #18 国本雄資 8位

悪天候に見舞われた予選から一夜明けた17日決勝日。朝のフリー走行開始時点ではどんよりとした曇り空から雨がパラついていましたが、徐々に晴れ間が広がり、路面コンディションも回復していった。前日の予選でクラッシュを喫した小林は入念にマシンの状態を確認。セッション終盤には1' 24.677のトップタイムを叩き出し、決勝に向けてポジティブな内容となった。国本も決勝に向けてセットアップを行い、17番手(1' 25.842)で走行を終えた。

気温27度、路面温度37度、夏らしい強い日が差し込む中、決勝が行われた。14時30分に始まったフォーメーションラップでストップ車両が発生したためもう1周追加となり、41周予定だったレースも1周減算の40周となった。スタート直後の1コーナーで4台が絡むクラッシュが発生したが、小林と国本はこの混乱をうまくかわし、ポジションアップに成功。小林は15番手、国本は14番手でオープニングラップを終えた。3周目、大クラッシュが発生したため、ここでセーフティーカーが導入された。9周終了時にリスタートが切られると、小林は早めのピットインを決断する。7位走行中の12周終了のタイミングでピットイン。素早くタイヤ交換を済ませると15番手でコースに復帰した。一方、好ペースで走行する国本はステアアウトを選択。レース折り返しの21周終了のタイミングでタイヤ交換を済ませ、15番手でコースに戻った。26周目、アクシデント車両が発生したため、2度目のセーフティーカーが導入される。レースがリスタートしたのは30周終了時。この時点で小林8番手、国本10番手と2台揃ってポイント圏内を走行していた。リスタート後、小林は前を走る#39 阪口選手を一度はかわしたが、レース序盤にタイヤ交換を済ませた小林のタイヤはアドバンテージがなくなってしまう、ポジションを戻してしまう。その後も必死にポジションを守ろうとするが、フレッシュタイヤを履く後続車を抑えることはできず、徐々に順位を落としてしまう。一時は7番手までポジションを上げた小林だが、14番手でチェッカーとなった。レース中盤でタイヤ交換をした国本はリスタート後のポジションアップに成功し、8番手でチェッカー。前戦菅生に続き、2戦連続ポイント獲得を果たした。



今回の決勝日、KCMGのメインスポンサーである株式会社キッズ・コム様が「Kids comのスーパーフォーミュラをみんなで応援に行こうツアー」を開催しました。観客席に特別応援席を設け、チームに大きな声援を送っていただきました。パドックツアーにご参加いただいた親子は実際にピットを訪れ、タイヤ交換に使用するエアガンやタイヤを持つてみるメカニック体験を実施しました。他にも男の子はドライバーとお揃いのスーツ、女の子はレースクイーンとお揃いのコスチュームを着てピットウォークやグリッドに立ち、小林選手、国本選手をレースに送り出す体験など、普段経験できないような体験をしていただきました。小さなレーシングドライバーとレースクイーンの姿は大きな注目を浴び、サーキットを大いに盛り上げてくれました。ご参加いただいたお子様の嬉しそうな笑顔を見ることができ、チームも楽しいイベントとなりました。



【ドライバーコメント】

#7 小林可夢偉選手

後半のセーフティーカー導入でタイヤのアドバンテージがなくなってしまったのが辛かったです。ポイント圏内にいただけにポジションを守り切れず、非常に残念です。茂木はいつも調子が良いサーキットなので、本来の調子を取り戻せるように頑張りたいです。

#18 国本雄資選手

色々改善しなければいけないところもあるし、車のパフォーマンスをもっと上げなければいけません。18番グリッドからポイントを獲得するのは難しいと思っていましたが、バトルでしっかり競り勝つことができたし、ミスなく戦って順位を上げることができたので非常に良かったです。次戦茂木は2レースあり、非常に重要なレースになると思うので、自信を持って戦えるようにしっかり準備して迎えたいと思います。

【監督コメント】

松田次生監督

予選は鈴鹿の時のようなウェットコンディションでしたがタイヤのグリップ感がなく、苦戦してしまいました。決勝は、小林選手は早めにピットに入って勝負をかける作戦に出て、ピット作業もコースに復帰した位置も悪くはなかったのですが、タイヤの持ちが良くなって順位を落としてしまいました。国本選手は周りの車がピットに入ったのでステアアウトを選択しました。レースペースも悪くなかったので良かったと思います。次戦茂木は2レースです。次こそは表彰台に上がれるようにしっかり準備をして挑みたいと思います。